

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月12日				
みいんななかよしもりせきのした						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	訓練室がワンフロアであるため、目が行き届きやすい分、活動量の多い児童が体を動かすには十分なスペースがないので、お天気の良い日は毎日公園やお散歩に出かけます。	建物の構造上、広さは変えられないため、左記の工夫にて改善しております。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	2		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5	ワンフロアの構造のため、大きな玩具やテーブルにて仕切りの様なものをつくり、空間の工夫をしています。	児童が落ち着けるスペース確保のため、大きめの仕切りなどを検討いたします。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	1	4	支援員一人ひとりに周知や相談、振り返りを行っていなかったため、この評価となります。	ミーティング毎の確認が必要と考えます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	外部評価を行ったことがなかったため、障がい専門とする方からのアドバイスを受ける機会を増やせるよう努力いたします。	外部との連携を工夫します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	1	4	研修を受ける機会を提供できるように配慮していきます。	外部との連携を工夫します。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	2		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	3	特に地域支援や連携の機会をつくっておらず、機会がなかったため、この評価となります。	地域の施設や関係機関との情報交換や交流を視野にいれ、機会を増やしていけるように努めます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	2	特定の支援員で作成しているため、全体での把握が追いついていなかったとみられます。	支援員全員での把握に努めます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	2		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	1		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	4	毎日の連絡は随時で行っているのみなので、ミーティングの回数を増やしていきたいと考えます。	支援員さんの出勤時間の調整を図る工夫が必要とされるため、改善目標となります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	日々の保護者様との連絡帳を通してのやり取りや、悩みごとの相談の機会を設け、利用児童の課題を見つけています。	様々な年齢の児童と一緒に活動する機会が多いことはメリットが大きいのですが、細部まで個別のレベルに合わせた活動をしていくように改善していきたいです。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	2		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	利用児童がこれから先に様々なサービスを検討できるように担当者会議に出席し、情報交換を行っています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	集団で学ぶことの大切さと、個別療育で自立に向けて活動する重要さは欠かせないものであるため、保育園や幼稚園との併用を行っている児童の情報交換は心掛けています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	今年後に初めて児童発達支援から放課後等デイサービスに移行し、そのための担当者会議が多くありました。利用児童の成長のために支援者間での情報交換は大切です。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		5	センターさんとの関わりを持ったのが最近の出来事でしたので、この評価となりました。より深く関わりを持つために情報の交換を適切に行っていきます。	センターさんとの情報共有を深めます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	保育園や幼稚園さんには送迎でお伺いする際または支援会議等で情報共有をさせていただいておりますが、そこまりであるため、機会を増やしていきたいと考えます。	交流や情報交換の機会を増やします。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	4	ご家族が参加できる機会をつくり、悩みごとの解決に向けて交流を図ることが望ましいと考えます。	事業所発信での保護者会の開催を目指します。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	2	3		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5	見学时や面談時、送迎時といった場面での関りが主でしたので、保護者様が気軽に足を運べるような交流の場を設けることが必要だと考えます。	事業所発信での保護者会の開催を目指します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	1		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	障がいをもつ児童も社会の中の一人の人間として生きていくためのインクルーシブ教育を行うために地域社会とのつながりは大切であるが、地域との交流の機会がまだなかったため、取り組むべき課題であると考えます。	民生委員さんとの繋がり強化を目標とします。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	4	作成はしてあるものの、ミーティングなどでの随時の発信がなされていないため、この評価となります。	ミーティング毎の確認が必要と考えます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	1	4		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	2		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	4	緊急連絡先や連絡方法などの連携はあったものの、緊急時の集合場所などの計画については周知していないご家庭もあったため、見落としとすることのないように取り組むべきと考えます。	面談時や送迎時に各ご家庭の状況把握に努め、変更があれば随時確認します。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	利用児童の身体に危険が及ぶ場合には支援者による強い制止があることをお伝えしています。	詳細な取り決めなどがなかなか立てられない部分ではあるので、支援者間でも意識的に情報共有をしていきます。